

第3学年 総合的な学習の時間学習指導案（国際教育）

日 時：令和7年1月30日（木）第6校時
学 級：第3学年1組 24名
第4学年1組・A組 26名
場 所：3年1組教室前廊下
3年1組教室
算数教室
指導者：飯塚 亜希子
松橋 隼人

1 単元名 Welcome to OTA！ 大田区のみ力を伝えよう

2 単元の目標

大田区のおよさや特色を様々な国の保護者に伝える活動を通して、自分たちの住む地域についてより深く理解し、異なる文化をもつ人々の視点に立って考え、必要な情報を選び出したり、必要に応じて学んだ英語力を生かして積極的に発信したりすることができるようにする。

<国際教育の目標>

- 相手に分かりやすく伝える方法を理解し、活用する力を身に付ける。
- 相手に伝わりやすい方法を工夫して表現できる。
- 自分が考えたことを積極的に発信しようとする態度を養う。

3 単元の学習活動に即した具体的な評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
総合的な学習の時間	大田区のおよさや特色について、情報を収集し、相手や場面に応じた適切な表現方法があることを理解している。	大田区のおよさや特色について、集めた情報を、整理・分析し、必要なものを選んでいく。	自分が選んだ大田区のおよさや特色について、すすんで考えを伝えようとしている。
国際教育視点の評価規準	① 様々な国の保護者に伝えるために、図や写真など視覚的に分かりやすい工夫を取り入れることが必要だと理解している。 ② 様々な国の保護者に伝えるために、既習の英語表現を使い、文字の大きさや量、写真や図など視覚的に分かりやすい工夫を取り入れている。 ③ 様々な国の保護者に分かりやすく伝えるために、既習の英語表現を使い、声の大きさや写真、手の動きなどの発表の工夫を取り入れている。	① 大田区のおよさや特色を異なる文化をもつ人々の視点に立って考え、伝わりやすい表現を考えていく。 ② 様々な国の保護者に伝えるために、既習の英語表現を使い、文字の大きさや量、写真や図など視覚的に分かりやすい工夫を考えていく。 ③ 様々な国の保護者に分かりやすく伝えるために、既習の英語表現を使い、声の大きさや写真、手の動きなどの発表の工夫を考えていく。 ④ 大田区のおよさや特色を様々な国の保護者に伝わりやすく表現している。	① 大田区のおよさや特色について、様々な国の保護者に伝えたいことを選んでいく。 ② 学習を通して、さらに多くの人々に伝えようとしている。

4 単元について

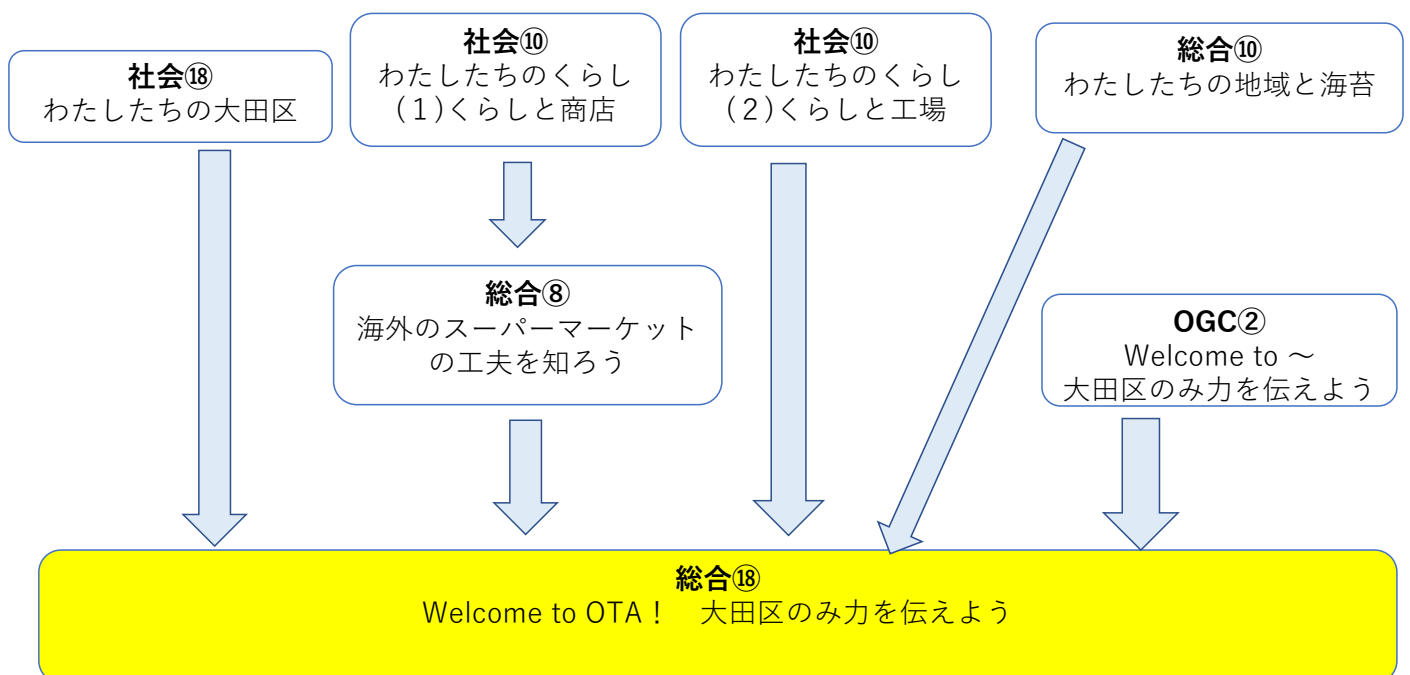
中学年では、「日本各地や外国の文化・伝統に興味をもつとともに、それらを比較して違いに気付く児童」「他者との関わりを通して、自分の考えや気持ちを積極的に表現することができる児童」を目指している。そこで、社会科、総合的な学習の時間、OGC を関連させ、大田区について自分の知らせたいことを、地図やリーフレット、ポスターなどにまとめ、様々な国の保護者に分かりやすく伝えられるよう、本単元を構想した。

社会科の「わたしたちの大田区」や「わたしたちの暮らし」で大田区について学んだ知識を基に総合的な学習の時間「Welcome to OTA！大田区のみ力を伝えよう」で大田区のよさや特色をさらに調べる活動を設けた。また、相手意識と目的意識をもたせることで、自分たちの住んでいる大田区の魅力に改めて気づき、それを大切にしたいという思いを高められると考えた。

これまでに社会科の「わたしたちの暮らし（１）暮らしとお店」と関連させ、海外のスーパーマーケットではどのような販売の仕方が行われているのかに目を向けさせた。海外でも地域の文化、人々の暮らしに合わせて工夫しながら販売していることを知ることで、海外の文化について興味をもたせることができた。これは、中学年の「日本各地や外国の文化・伝統に興味をもつとともに、それらを比較して違いに気付く児童」を目指して取り組むことができたと考える。また、「わたしたちの暮らし（２）暮らしと工場」では、大田区の工場の特色を大田区の魅力と捉えた。さらに、地域の特色である海苔づくりの歴史についても、海苔のふるさと館の見学等の体験を通して学んできた。

本単元では、これまでの学びから児童が感じた大田区のよさや特色について、OGC の「Welcome to ～大田区のみ力を伝えよう」とも関連させ、簡単な英語表現も取り入れながら、様々な国の保護者に伝える活動につなげたいと考えた。このような学習を通して、中学年で目指す「他者との関わりを通して、自分の考えや気持ちを積極的に表現することができる児童」を育てたいと考える。更に、英語力・発信力・コミュニケーション力を身に付け、自己肯定感や多様性を認め合う心情を高め、国際社会で活躍できるグローバルな人材としての素地を養っていききたい。

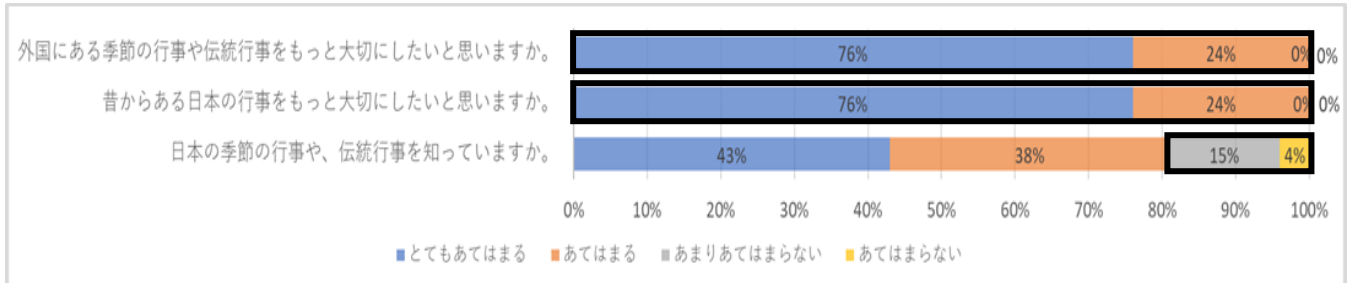
＜本単元との関連教科等および単元名＞ ※教科名の横の数字は授業時間



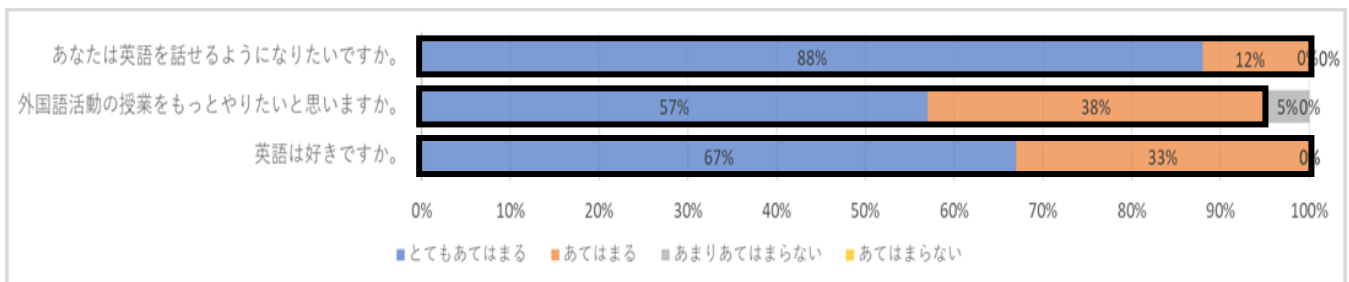
5 児童について

本学級は、日本以外に8か国をルーツにもつ児童がいる。幼少期から多国籍の環境に慣れているためか、児童の関わりに、国による隔たりは感じない。前単元の総合「海外のスーパーマーケットの工夫を知ろう」の学習では、他国の文化に興味をもち、積極的に調べている児童や、自国との文化の違いに驚きつつも、その違いを受容している児童が多く見られた。

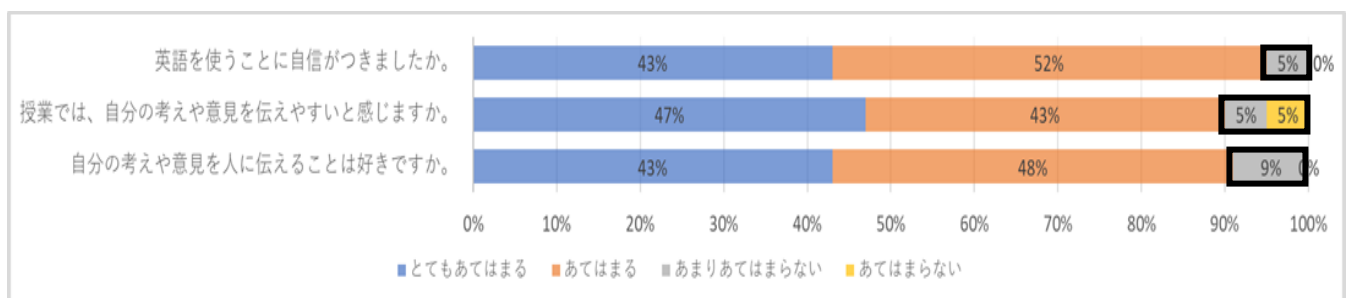
令和6年9月に実施したアンケートの結果は、以下の通りである。



自国の文化だけでなく、他国の文化も大切にしようという児童が多いことが分かる。一方で、自国の文化について、よく知らない児童が多いこともアンケート結果から読み取れる。そこで、児童にとって身近な「大田区」を題材として、その魅力について自分で詳しく調べてまとめたり、発表したりする活動を取り入れた。これらの活動を通して、自分たちの住む地域についてより深く理解することで、自国の文化理解へと広がっていきたい。



また、学級の全員が、英語が好きであり、話せるようになりたいと思っている。外国語活動の授業をもっとやりたいと思っている児童も95%いることが分かった。児童が英語の重要性を感じ、英語学習に対して意欲的であると考ええる。



一方で、英語を使って表現することに自信がない児童が5%、自分の考えや意見を相手に伝えることに自信がない児童が9%、いることが分かった。また、自分の考えや意見を伝えにくいと感じている児童も10%いる。授業中、一方的に話し、友達の考えや意見を受け入れることができていない児童も見られる。そこで、少人数のグループの中で、自分の考えや意見を伝える活動を取り入れた。そうすることで、児童一人一人の意見が反映され、自己肯定感が高まり、児童が安心して自分の考えや意見を発信できるようになると考えた。

本単元を通して、積極的に自分の考えや意見を伝えることができる児童を増やし、発信の機会を多く設けることで児童に自信をもたせ、児童の発信力を高めていきたい。

6 国際教育の視点における指導と評価の計画

時	ねらい	主な学習活動・内容	知	思	主	評価方法
1	大田区の魅力について、学んだことを振り返り、今後の学習の流れを知り、見通しをもつ。	○今までに学んだことを振り返る。 ○大田区の魅力から伝えたい内容を決める。			①	大田区のよさや特色について、様々な国の保護者に伝えたいことを選ぶとしている。 (行動観察・発言)
2	大田区の魅力を伝える方法を考える。	○地図、ポスター、リーフレット、パンフレット、すごろく、など伝える方法を考える。	①			様々な国の保護者に伝えるために、図や写真など視覚的に分かりやすい工夫を取り入れることが必要だと理解している。 (行動観察・記録)
3 4 5 6	大田区の魅力を地図やポスター、リーフレットなどで分かりやすく表現する。	○インターネットや本などで大田区の魅力を調べる。 ○決めた方法で大田区の魅力についてまとめる。 ○互いの成果物を見合い、助言し、改善する。		①		大田区のよさや特色を異なる文化をもつ人々の視点に立って考え、伝わりやすい表現を考えている。 (行動観察・成果物)
7	様々な国の保護者に分かりやすく伝えるための、成果物の工夫を考える。	○グループごとに発表し合い、助言し合う。		②		様々な国の保護者に伝えるために、既習の英語表現を使い、文字の大きさや量、写真や図など視覚的に分かりやすい工夫を考えている。 (行動観察・記録)
8 9	様々な国の保護者に分かりやすく伝わるように成果物を改善する。	○助言を基に内容を改善する。	②			様々な国の保護者に伝えるために、既習の英語表現を使い、文字の大きさや量、写真や図など視覚的に分かりやすい工夫を取り入れている。 (成果物)
10 11 12 13	大田区のよさや特色が分かりやすく伝わるようにスライドで表現する。	○テーマごとのグループに分かれて、大田区のよさや特色についてのスライドを作成する。 ○発表の練習をする。		①		大田区のよさや特色を異なる文化をもつ人々の視点に立って考え、伝わりやすい表現を考えている。 (行動観察・スライド)
14 本時	様々な国の保護者に分かりやすく伝えるための、発表の工夫を考える。	○グループごとに発表し合い、助言し合う。		③		様々な国の保護者に分かりやすく伝えるために、既習の英語表現を使い、声の大きさや写真、手の動きなどの発表の工夫を考えている。 (行動観察・発言・記録)
15 16	助言を基により分かりやすい表現方法を取り入れ、改善する。	○助言を基に内容を改善する。 ○発表の練習をする。	③			様々な国の保護者に分かりやすく伝えるために、既習の英語表現を使い、声の大きさや写真、手の動きなどの発表の工夫を取り入れている。 (行動観察・記録・発言)
17 18	大田区の魅力を様々な国の保護者に分かりやすく表現し、学習を振り返って自分の考えをまとめる。	○様々な国の保護者に発表する。 ○単元の学習を振り返り、さらに多くの人に伝えたいことを考える。		④	②	大田区のよさや特色を様々な国の保護者に伝わりやすく表現している。 (行動観察・発言・記録) 学習を通して、さらに多くの人々に伝えようとしている。 (発言・記録)

7 本単元における研究主題に迫るための具体的な手だて

(1) 「大田区」を題材とした学習活動

児童が親しみやすくイメージをもたせやすくするために、児童が住んでいる「大田区」を題材として学習活動を展開した。また、社会科見学では、「地域巡り」を行い、大田区のよさについて発見したことで、学習の意欲につながると考えられる。更に、児童が作成した地図やポスター、すごろくなどを活用してグループ活動を行うことで、個人の思いを反映することができる。

(2) 発表シートの活用

①「聞こえる声で」、②「からだの動き」、③「すっきりまとめて」の3つのポイントを児童に意識させるために、それらを示した発表シートを活用した。また、本時では聞き手のポイントを示したシートも用意した。静かに聞くだけでなく、どのようなリアクションをとりながら聞くことが望ましいのかを示すことで、高学年で身に付けたい英語での対話のやり取りにつながると考えた。

(3) 主体的に話し合うグループ編成

配慮が必要な児童や活動に消極的な児童も発言しやすく、主体的に話し合いへ参加できるようにするため、3人～4人の少人数グループでの活動を取り入れた。また、少人数により児童一人一人の意見や考えが注目されるため、児童の伝える力や相手の話を聞く力が鍛えられ、コミュニケーション能力の向上にもつながると考えた。多様性を受容し、互いのよさが発揮できたり、引き出し合えたりするようなグループを教師が考えて編成した。

(4) パターン化した活動

児童に見通しをもたせ安心して学習に取り組めるようにするため、単元の構成を、「①発表の準備→②発表→③助言をし合う→④助言を基に修正・改善」とパターン化した。同じ構成で3回授業を行い、振り返りを繰り返すことで、発表をよりよくしていく経験を積み重ねることができる。さらに、経験を積み重ねることで、児童が自信をもって主体的に学習に取り組み、発信力の向上につながると考えた。

8 本時の学習（全 18 時間扱いの第 14 時間目）

（１）本時の目標

様々な国の保護者に分かりやすく伝えるための、発表の工夫を考える。

（２）本時の展開

過程	形態	学習活動	○指導内容 ●支援 ☆留意点	研究との関連 (個別の手だて)	評価事項
導入 つかむ 5 分	全体 (3・4 年) ※3 年 1 組教室廊下	1 本時の学習を知る。 2 発表シートを使って、発表のポイントを確認する。	○大田区の魅力について、 様々な国の保護者に伝えるために昨年経験している 4 年生から助言をもらうことを確認する。 ☆4 年生には発表のポイントに沿った助言するよう伝える。	※発表のポイントを掲示する。 ・声の大きさ ・話す速さ ・からだの動き ・スライドの分かりやすさ	
本当に伝わっている！？ 家の人に分かりやすく伝わる発表の仕方を見つけよう。					
展開 広げて 深める 30 分	グループ (3 年 1 組教室・算数教室)	3 大田区の魅力について、グループごとに簡単な英語も使って発表する。 (例) 公園、銭湯、のり、羽田空港、地名の由来、スーパーマーケット、商店など 4 発表を聞いた 4 年生が助言する。	○4 年生には発表を聞きながら、評価シートに○を付けさせる。 ※6 つのグループを 2 つに分けて各教室で発表させる。 ☆発表のポイントに合わせた評価シートを用意する。 ○それぞれのグループの発表後、発表のポイントに合わせて 4 年生に助言させる。 ●板書で助言内容を整理する。		様々な国の保護者に分かりやすく伝えるために、既習の英語表現を使い、声の大きさや写真、手の動きなどの発表の工夫を考えている。 【イ - ③】 (行動観察・発言・記録)
まとめ 10 分		5 本時の学習を振り返る。	○発表した感想を数名に言わせた後、感想や助言をワークシートに書かせる。 ☆3 年生には発表した感想を書かせ、4 年生には助言を書かせる。 ☆発表のポイントに沿った感想や助言を書かせる。		